



086-245-4343

相談電話 24時間いつでも シミジミ

岡山いのちの電話



写真 岡山県真庭市

思い出

斎藤 恵子

わたし
が何
もの
である
かを
質
そう
にも
わたし
がわ
たし
自身
なの
だ

わたし
を形
づく
っている
ものたち
今は
それらを
負
って
進
むだけだ

思い出が
わたしを飾
っている
きらびやかに古び
雑多な色あいをして
少し重いものたち
ひとから見れば
ガラクタかもしねない

「共感」と「共鳴」 つながりが「わたし」をつくる

2020年9月27日 ピュアリティまきび

岡山大学 文学部 准教授
松村 圭一郎 氏



「あなたはだれですか？」

岡山大学で文化人類学という学問を教えています。人と人がつながるとはどういうことを意味しているのかということを考えてみたいと思います。

例えば「あなたはだれですか」と問われたときに、幾つかの答え方があると思います。私も男性、日本語を話す人、40代などの答え方があります。

「あなた達はだれですか」と聞かれたときには「岡山県民です」とか「岡山市民です」とか、様々な語り方がある。「岡山県民です」というまとまりを入れた途端、別々の存在というより同じ仲間みたいな感じですね。

さて、「あなた達はだれでしょう」と問いかけられたら、私とは講演を聴く側と講演をする側という形で別の存在になるのですけど、「私たちはだれでしょう」と言った途端、枠組みで私達というイメージすることもできる。

ある瞬間、例えば「日本人はこう」「中国人はこう」「韓国人はこう」と言った途端、その中の一人ひとりが同質の同じ存在になってしまふんですね。

つながりの先に「私」と「あなた」がある

今日の話の狙いを最初にお話ししておきますと、私と他人は一緒だとは思っていないですね。でも同時に私と他人が違うはずにあるときには同じ存在になるのです。

「日本人は」「韓国人は」と言わされたときに、さっきまで違う存在だったのに同じものとして語られてしまう。だから私とあなたが違うということは、最初からはっきりしているわけではないかもしれない。

でも一体私達はどのように違っていて、何と何が分断されていて、それがつながったら何になるのか、ということをあまり考えていないのではないかと思うんですね。

最初に結論めいたことをいうと、私とあなたという違う存在があって、それがつながるというよりも、ここで何らかのつながりができ、つながりの先に私とあなたというものができるのではないか、ということです。

「日本人は」「中国人は」というカテゴリーで

最初に身近な例を出してみたいと思います。「中国人は○○だ」「韓国人は○○だ」というような語り方と、「日本人は何々だ」「私達とはこういうもんだ」という語り方が同時にされています。

私は大学生の時行ったエチオピアで道端で物乞いをしている6、7歳の少年に「チャイナ、チャイナ」と言われ、私は「チャイナではない。ジャパンと言直せ」と言ってしまったのですが、向こうからみれば見た目ほとんど区別つかないんですよね。でも私達は違うといいたくなる、で、間違われるとカチンとくるの

です。

私が大学生の時京都で生活していた時、バスに中国人の観光客の方がグループで乗り込まれてきて、「わー」と中国語で話される。その時私は「やっぱり中国の人はうるさいな」と思ってしまった。

で、その後に日本人の中学生くらいの修学旅行生がグループでペチャクチャしゃべっていた。この時「あれっ。日本人はうるさいなとなんで思わないんだろう」と疑問が沸き起こったんです。

犯罪が起きたときに「外国籍の人が増えると治安が悪くなる」という言い方が広まるのですが、不思議なことに「日本人が増えると犯罪が増える」とはだれも思わないです。

私たちは自分たちと違う人たちが起こしたトラブルについて「○○人だから」「男性だから」「女性だから」「今の若者は」とかいろんな言葉でその彼らを名指して、「ああだこうだ」と言ってるわけですね。

自己をカテゴリーで理解している

私達は知らないうちに自分をある特定のカテゴリーと結び付けて理解しているわけです。カテゴリーと結びつきながらある時ある場面において顕在化していくのです。

私の例でみていきますと、出身は熊本県で九州人です。関西の大学にいったんですが「あなたやっぱり九州男児だから」みたいな言い方をされて驚く。出身地とか国籍とか職業とかで、違う存在とされ、服装とか言葉使いとか態度とかもそれぞれに応じて期待されたり、そういう意味を込めてなされたりするんです。

ある時代にはそれが命をかけて戦うべき違ひだったりもしたわけです。歴史的にもその差異は変化してきて、私というのは複数あってその複数の在り方は時代とか状況に応じて変化していくということですね。

カテゴリーがズレたら

ハーヴェイ・サックスは社会学者で、「成員カテゴリー化装置」という議論をしてきました。

例えば性別であれば男性と女性、家族関係であれば、父親、母親、息子、娘、国民で言ったら日本人、中国人、韓国人、こういう風に私たちは様々なカテゴリーを使い、使わないで説明するのは難しい。

サックスはカテゴリーを場面で切替え、ある法則をもって秩序たてて適応させていくといいました。

同じ場面では同じカテゴリーが適用され、また1つのカテゴリー集合で済ませる場面で複数使うと、わけが分からなくなるということです。

成員カテゴリー化装置ということを知らないても私たちは無意識のうちにこういうことをして日常生活をお

くっている。職業で言ったら父は警察官です、兄は大学生です、母親は教師です、というんだったらまだいいです。職業というカテゴリー集合を一貫して使えばどちらのカテゴリーを使っても大丈夫なわけですが、混ぜてはいけない。

私はこういう人間だと言われるかもしれません、実は状況ごとに変わっている、ということなんです。一人一人も無数のカテゴリーの中、それを身にまといながら日々使い分けながら生きているのです。

例えば報道で事件が起こると外国籍の何々といった途端それはあるイメージを引き起こす、なんなくその属性によって非正規雇用のだと無職のだと、それによって私たちはなんとなくその場面を理解した気になる。

その人が変だというよりもそのカテゴリーとふさわしさがズレているときに、私たちは「あれっ」と思う、これが成員カテゴリー化装置と考えます。

エチオピアの最初の体験

私自身の経験を話そうと思います。私自身は最初エチオピアに「コーヒーの生産と流通のダイナミズム」の調査の名目で出かけましたが、現地について住み込みが許可されず、隣接する農村で部屋を間借りして住むことになり、そのうちにコーヒー農園よりも村で起きていることの方が興味がわいてきたのです。

村の中に入り込んでいくことが文化人類学の調査には求められ大切だとされているのです。

朝、放牧にいく時家の中を牛が通って糞を落としながらいくのですが、彼らにとっては何も不思議でない。牛の糞は非常に貴重で、土間は牛の糞を塗り固めて作ってあり、糞は自然の漆喰でにおいもなくなるのです。乾燥させると貴重な燃料になる。

村では牛の糞は様々な生活場面に関わっていることに気づかされ、コーヒーの調査から牛の調査に変わっていたのです。

エチオピアの子ども

靴磨きの少年に靴を磨いてもらはながらエチオピアの言葉を教わった。彼らは家もあるが靴磨きをしながらお小遣いは稼いでいた。楽しそうにしている。働かされて可哀想な顔でなく、むしろ誇らしい顔。子どもは自分が好きな所でご飯をたべていいし好きな所で寝泊まりしていい。大人たちもそれを当然のこととしていて、子どもの居場所が子どもの意思によって変更可能で、最初は混乱したが柔軟な家族の関係で生活しています。

人類学はまず自分が現地に行ってみて、自分と彼らのそれから「何かおかしい」「何があるんだろう」と問い合わせて「変と思っている私の見方がおかしかった」ということに気づかされます。

ぼろの服を着て、小2で学校をやめてしまったが、牛のことならなんでも知っている子どもがいます。いろんな人生をたどっていきます。単に「かわいそう」「貧しい」という言葉ではなく彼と私の関係ができていくのです。

子育てについて

子育てについて、農家の女性たちは忙しいので、小さな子は兄弟、従妹、おばあちゃんが見たり、通りがかりの近所の人がきてあやしたり、その場で手が空いた人が子供を受け渡して、だれもいなかつたら私が抱っこしたりしました。

日本で起きる虐待やネグレクトがここでは起きようがない。日本では虐待する母親のことを犯罪者として報道され、隣近所や家族や親との関係の変質はほとんど触れられず、その人の問題にされる。

日本ではその場にふさわしい規範、目に見えないルールに私たちは縛られていて、それができない人はダメな人間、失敗した人間になるわけです。

家出が問題なのは家出をする少年少女が問題なのでなくて家出はダメというルールの方が問題を作り出しているのです。日本も5、60年前には、子どもを必ずしも母親だけがみていたのではないことを忘れてしまって、今ある状況を問題だという風にみてしまうのです。

「はみ出していく」

ティム・インゴルドは人類学の説明を、「迷宮」と「迷路」という二つの言葉を出して対比しています。

「迷宮」は、道すがら虫がいるとか面白い穴があるとか子どもの道草のようなもので、それと対比して「迷路」とはナビに最短距離を入れて仕事をしているビジネスマンのようなものというものです。

子どもは予想しないことにドキドキ、ワクワクし、変化に応じて自分も進む道を変えたりする。それに対して迷路を進んでいる人は目的のことしか頭にない。

人類学は前者に近いという事がいいたいわけです。途中で起きる新たな変化を観察して、「なんでこんなことが」「その背後に何があるんだろう」と予定になかったルートを歩み続けることが重要なんだということです。

最短距離で効率よく仕事をこなす事はほとんど機械で出来てしまう。人間は進み方に応じて状況の変化をとらえ、目的を更新させながら自分が変化していく、周りの出来事をよく観察して考えていくのです。

この私が変化していく、目標そのものが変化する試行錯誤の曲線がまさに人類学がやっていることだし、その中に何が起こるかというのが今日の話です。

私たちが変化しうるか

「〇〇人はこうだ」と差異を強調するような感じで共感つながることは、同時に仲間ではない人に対する敵意、対立になってしまいます。じゃあどうしたらいいか。私たちは変化しうるというところに立てるかどうか、です。

エチオピアで交流していくと私は変化していくんですね。可哀想と思っていた子ども達の姿から学ばされることがあるし、私と彼らとの関係が変化し仲間や友達みたいになっていく、そうすると互いの境界は消え、開かれて、また別の私達のあり方がみえる。既存の境界線が解けて輪郭が解けるような経験は、私たちも日常の中で経験することがあると思う。「ああそういう考え方もあるんだ」というような経験ですね。

分断を超えるキーワードは、違うと思っている人と交じり合う中で、私達のあり方が変化していくような、そういう共鳴の関係ができないかということを考えてきたわけです。

私というのはそもそも複数あり、「私はこういうものだ」「趣味ではない」といった差異と出会い直すと、また違う私の可能性になっていくのではないかということです。

最後に、「あなたは誰ですか」と問われた時、どういうあなたを私を想像するかということですね。考えていただければと思います。

(要旨 文責広報部)

男性 50 代の増加

50 代に多い自殺関連件数



総受信件数

8,725 件 (うち男性 4,887 件、女性 3,838 件)

自殺関連件数

851 件 (対受信率 9.75%)

(数値は全て統計部による)

1、男性 50 代の増加

全体件数は、前年の 1 月から 6 月の上半期に比べ約 300 件減少でした。男性件数は約 20 件の増加で、女性件数約 300 件の減少でした。男女比は 56% 対 44% となりました。

男女合計件数では、50 代が最も多く次いで 40 代でした。50 代は約 2,000 件あり、男女どちらも 1,000 件以上ありました (図 1)。次いで 40 代、30 代、60 代となり、これは前年同期と同様でした。

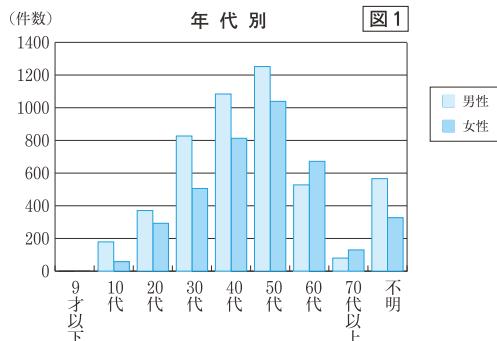
最も多いのが 50 代男性で、次いで 40 代男性 50 代女性となりました。前年同期は 40 代男性が最も多くありました。今期は 50 代男性が最も多く 100 件以上の増加でした。

増加したのが、20 代女性、40 代男性、50 代男性でした。また 10 代は男女とも微増でした。10 代と 70 代はそれぞれ約 200 件で、他の年代に比べ少ない件数です。以前は 70 代が最も少なかったのですが、近年 10 代が最も少ない年代となりました。

今期は 20 代女性からの相談が増えていましたが、10 代 20 代の方にも悩みがあれば電話をかけて相談してほしいと思っています。

男性件数は、10 代から 50 代へと年代が高くなるにつれ上昇していました。これまで男性は 30 代 40 代が多く 50 代になると減少していましたが、今期は 60 代になって減少に転じています。転じてはいますが男性 60 代は前年に比べ増加していました。

女性件数も 10 代から 50 代へと年代につれ多い件数でした。女性件数は 10 代 20 代以外は前年に比べ減少していました。60 代女性件数も減少で、以前は 60 代は女性件数が多くあり、男女差が大ききましたが今期は差が少なくなっています。



2、男性の精神の健康問題の増加

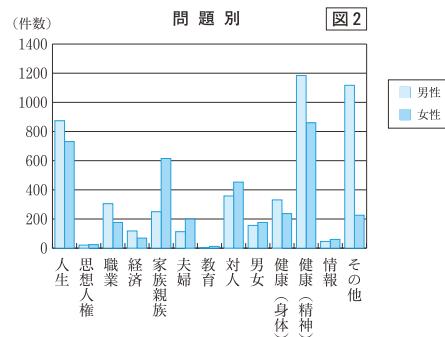
問題別で、男女合計が最も多いのが精神の健康問題でした (図 2)。男性は約 1,200 件あり、前年に比べ約 100 件増加でした。女性は前年に比べ約 160 件減少でした。

次いで人生問題が男女合計で約 1,600 件あり、これは前年とほぼ同数でした。家族問題は合計約 870 件あり前年に比べ男女ともやや減少でした。対人問題は男女合計約 800 件で、前年に比べやや減少でした。

男性件数で最も多いのが、精神の健康問題、次いで人生問題、対人問題、身体の健康問題となりました。精神の健康問題は約 100 件の増加でした。人生問題は前年とほぼ同じでした。また、対人問題は少し増加していました。以前は身体の健康問題の方が多くありました。雇止め、転職、離婚など人間関係も流動的な現代で、それゆえストレスも

増加するのでしょうか。

女性件数で最も多いのが精神の健康問題、次いで人生問題、家族問題、対人問題でした。人生問題がやや増加で、他は減少でした。男性と比べ多いのは、家族問題、夫婦問題、対人問題、男女問題、情報問題でした。特に家族問題は男女差がありました。家族、親戚、介護、夫婦などの問題は、女性が負うことが多く、しかも人に知られたくない問題と思われます。電話をかけて悩みを吐き出してほしいと思います。



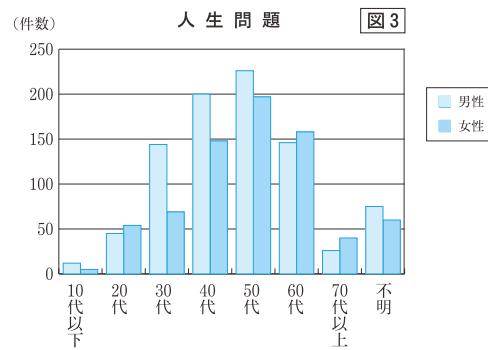
3、人生問題の 20 代と 60 代の増加

人生問題は 50 代男性が最も多く、前年と同じです (図 3)。次いで 40 代男性、50 代女性となりました。男女合計で約 1,600 件あり、男女比は 54% 対 46% で、全体の 18% を占めました。前年とほぼ同じですが、男性件数が少し減り女性件数が少し増加でした。

男女ともに 10 代から 50 代へと年代につれ多くなり、60 代で減少に転じていました。今期は 20 代が男女ともに微増で、60 代も男女ともに増加していました。

20 代は女性件数が多く、30 代 40 代は大差で男性件数が多く、50 代では男女差が少くなり、60 代では女性の方が多くなっていました。

20 代と 60 代が増加でした。人生問題は生きること、生活、孤独や不安の問題ですが、この 2 つの年代はお金のこと、将来のことなどに心配することが多い年代と思われます。これまで考えたこともなかったコロナ禍があり、若い世代は先が見えない将来への不安、60 代では老後の生活不安などが考えられます。特に 60 代は前年に引き続き増加でした。これまで 60 代になると減少していたのですが、現代は働き続けなければならない状況にある人が多く、悩みは尽きることはありません。苦しいときは電話をかけて話してください。



4、50代女性が多い家族問題

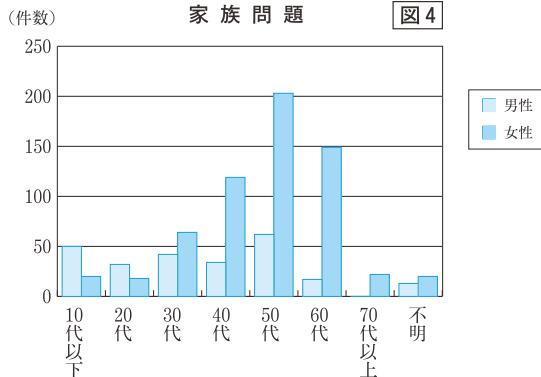
家族問題は前年に比べ男女とも減少でしたが、それでも全体の10%の割合を占めます(図4)。女性が71%を占め、50代女性が最も多い件数でした。次いで60代女性、40代女性、30代女性でした。

50代女性件数は200件を越えていますが50代男性は60件ほどで、約3分の1以下でした。60代女性件数も150件近くありましたが、男性件数は10数件で大差でした。

40代50代60代は女性件数の多さが目立ちます。60代になってもなお40代よりも多く、70代は男性件数は0件でした。

家族が家族として機能するには男女を問わず家族の成員が力を合わせなければならないと思いますが、家族のことは女性が考える問題として認識されているのでしょうか。育児、介護、不和、病気など家族の中だけで解決できない問題は多くあり、しかし女性が担うことが多い現代について考えさせられます。だれにも言えない家族の問題も電話で相談してください。

図4 家族問題



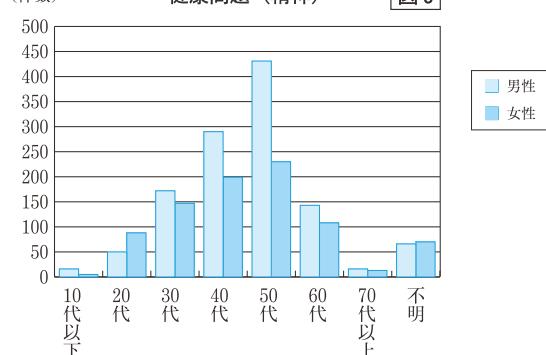
5、精神の健康問題の男性の増加

精神の健康問題は男女合計約2,000件で前年同期より少し減っていました(図5)。男性件数は約100件増加し、女性件数は少し減少していました。男女比は58%対42%で前年と比べ男性の割合が多くなっていました。

男性件数は40代50代60代70代が増加でした。50代男性は400件を越え、前年と比べ約100件以上の増加でした。他年代の増加はわずかでした。男性の30代40代50代までは上昇しますが、60代になると減少して、働きの年代の男性からが多いことが分かりました。

女性の件数では20代30代40代50代と年代につれ多くなり、50代からが最も多くありました。60代になると減少していましたが男性ほど顕著ではありませんでした。

図5 健康問題(精神)

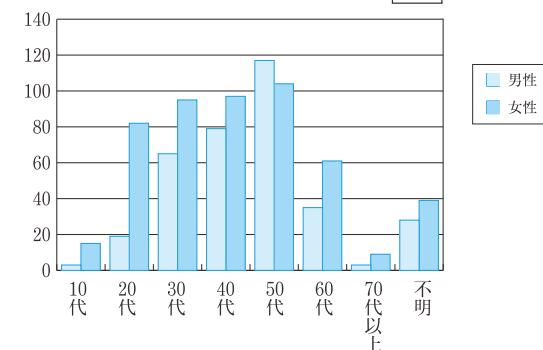


6、50代の自殺関連の増加

自殺関連件数は前年同期に比べ8件の増加で、全体件数は851件でした(図6)。男女比は41%対59%で、男性件数は前年に比べ31件の増加で349件、女性件数は23件の減少で502件でした。

男性件数は20代30代50代が増加で、中でも50代は最も多く100件以上ありました。女性件数は20代が増加でした。

図6 自殺関連年代別

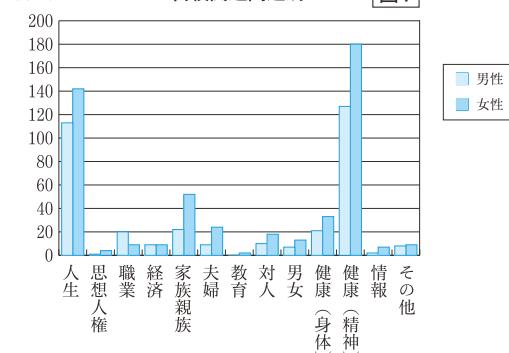


最も多いのが50代男性、次いで50代女性、40代女性、39代女性、20代女性となりました。50代が男女とも最も多い件数でした。これまで30代40代からが多くありましたが、今期は中高年の50代になっていました。

男性20代は前年より少し多くなっていましたが、女性に比べるとかなり差があります。悩みが無ければよいのですが、あるのでしたが掛けてきてほしいと思います。

問題別では、女性の精神の健康問題が最も多く、次いで女性の人生問題、男性の精神の健康問題、男性の人生問題となりました(図7)。前年と比べ人生問題は男女とも増加、精神の健康問題は男性が増加で女性はやや減少でした。

図7 自殺関連問題別



男女ともに精神の健康問題と人生問題が自殺関連の大きな割合を占めています。健康とお金が生きる上で大きな問題となっていることは今に始まったことではありませんが、話すことで気持ちを切り替えてほしいと願っています。

男女ともに、家族問題が精神の健康問題、人生問題に次いで3番目に多くあります。男性も自殺関連で家族問題があり、悩んでいることが分かります。男性が女性よりも多いのは職業問題で、コロナ禍で解雇など雇用の問題が大きくあるのではないかと思われました。

前年の今は、コロナ禍は考えたこともありませんでした。世界情勢、災害など思わぬ時に思わぬことが起きることを否でも認識させられる現代です。その禍がわが身にふりかかり悩むことがありましたら、どうぞ電話を掛けて相談してください。電話の前にいます。

(文責 編集委員)

「はい、岡山いのちの電話です」

あなたも相談員として
仲間に加わっていただけませんか



第38期 相談員募集要項

募集人員	40名程度
応募資格	23歳～65歳程度（ご相談ください）で、いのちの電話の趣旨に賛同し、活動に積極的に参加できる方。 特に深夜帯に活動できる方を歓迎します。
受講費用	20,000円（1泊2日の宿泊研修を2回分含みます） ※岡山県電話相談支援事業委託により、受講料減額中です。
受講期間	2021年4月8日（木）～2022年3月17日（木）予定 おおむね月3回 木曜日 18:30～20:30
申込手続き	1. 決められた申込用紙（裏面） 2. 「受講動機」と題する作文（A4、800字以内） 3. 「私の生き立ちと今の自分」と題する作文（A4、2000字以内） 4. 申込料1,000円（100円以下の切手可）
募集期間	2020年12月～2021年3月6日（土）予定
面接日	2021年3月13日（土）午後予定 場所は別途お知らせします。 (申し込まれた方は面接を受けていただきます。場合によっては受講をお断りする場合もありますのでお含みおきください。)

お問い合わせ

岡山いのちの電話協会事務局（申込先も同じ）

〒700-0972 岡山市北区上中野1-3-5 TEL (086) 245-4344 (月～金 10時～17時)
ホームページ <http://okayama-inochi.jp/>

〈第38期（2021年度）養成講座の内容ならびに開催日予定〉 曜日と時間：木曜日 18:30～20:30

No	開催日	講義内容	No	開催日	講義内容
1	2021年4月8日(木)	開講式 人間関係づくり（グループワーク）	19	9月16日(木)	ショートカウンセリング（4）
2	4月15日(木)	いのちの電話とそのボランティア	20	9月30日(木)	ショートカウンセリング（5）まとめ
3	4月22日(木)	人の心の発達	21	10月7日(木)	青少年の理解と対応
4	5月6日(木)	カウンセリングのこころと方法	22	10月14日(木)	家族関係論～家族療法から～
5	5月15日(土)～16日(日)	人間関係体験学習（1）（宿泊研修）	23	10月21日(木)	自殺の心理と介入
6	5月20日(木)	宿泊後フォローアップ研修	24	11月4日(木)	頻回通話者について
7	5月27日(木)	病める心の理解と援助①（主に精神病）	25	11月11日(木)	性の問題と電話相談
8	6月3日(木)	病める心の理解と援助②（主に神経症）	26	11月18日(木)	電話相談員の危機
9	6月10日(木)	病める心の理解と援助③（主に発達障害）	27	12月2日(木)	相談員と語る（電話相談のスピリット）
10	6月24日(木)	女性のこころのケア	28	12月9日(木)	社会資源とその情報提供の仕方
11	7月1日(木)	PTSD（心的外傷後ストレス障害）適応障害	29	12月16日(木)	実地訓練に入るに当たって（見学・先輩と語る）
12	7月8日(木)	自分を見つめる－内観療法－	30	2022年1月～3月	実地訓練
13	7月17日(土)～18日(日)	人間関係体験学習（2）（宿泊研修）	31	1月27日(木)	ケース研究（1）
14	7月29日(木)	電話相談の方法（1）積極的傾聴の意義と技法	32	2月24日(木)	ケース研究（2）
15	8月5日(木)	電話相談の方法（2）質問・助言・情報提供	33	3月3日(木)	相談員と語る（グループ討議・閉講式）
16	8月19日(木)	ショートカウンセリング（1）	34	3月17日(木)	認定式
17	9月2日(木)	ショートカウンセリング（2）	35	6月23日(木)	認定後フォローアップ研修
18	9月9日(木)	ショートカウンセリング（3）			

全国研修会「おかやま大会」分科会「内観療法」報告



1年前の2019年10月に全国大会が岡山で開催されました。今年はコロナ禍で全国大会は開かれません。岡山での「内観療法」の分科会の概要と参加者の声をお知らせします。

研修講師は笛野友寿氏（川崎医療福祉大学教授）、林孝次氏（山陽内観研究所所長）、林秀世氏（山陽内観研究所）でした。

內觀療法概要

内観療法とは、相手に対して①してもらったこと②して返したこと③迷惑をかけたことの3項目を想起するものです。「内観は事実を淡々と想起するもので、その行為こそが反省である」とし、自己反省法であるにもかかわらず、いっさい反省を求める点に特徴があります。①②③を想起することにより、負の価値観に覆われていた（見えなくなっていた）多くの事実を、自分で掘り起こすことで、見えなかったものが見えるようになります。

いじめなどによりトラウマが原因で自己肯定ができなくなった人の場合、過去を見つめなおすことによって、「自分は決して間違った存在ではないのだと確信でき、自己肯定感を回復する糸口が得られます。また「自分もずいぶん周りの人に迷惑をかけてきたのだ」という感覚が芽生えると、心象風景もがらりと変わります。

内観実習は①壁に向かって楽な姿勢で座る

(ゆるやかに情報を遮断する) ②現在まで数年ごとに区切って思い出す。③最初は母親に対して思い出す。④面接者に対して思い出した内容を話す。⑤面接者は内観者の言葉を傾聴するのみ。

参加者の声

- ・3項目を年代順に想起するという、とてもシンプルな方法であるにもかかわらず、思い出しているうちに感情があふれ出してくるような体験をし、短時間に自分の心の棚卸ができたような気がしました。
 - ・1つのエピソードを通して自分を見つめることにより、深い気づきになる経験ができました。
 - ・認識できていると思っていたことを言葉にして先生に聞いて頂き、涙が出たことに自分自身が驚き、言葉にして聞いて頂くことの大切さを再認識しました。
 - ・幼い頃を思い出すと、自分がしてもらったことの感謝しかありませんでした。自分勝手に生きてきた自分を振り返り、亡くなった父母に恥ずかしくない人生を全うし、それを報告したいと感じました。
 - ・内観のセラピストは、ほとんど傾聴の手法でした。傾聴の力を改めて感じました。

第33回岡山自殺予防公開講演会「伴走」にご来場ありがとうございました。

11月21日(土) 13:30~15:30

「私とパートナーズ、そしてマラソン

久保 瞳氏（ももたろうパートナーズ、ブラインドランナー代表）

貝畠和子 氏(ももたろうパートナーズ、アドベンチャーランナー代表)

2020 年

事務局日誌

7月16日	岡山県自殺対策連絡協議会（堀井、草苅）
7月29日	倉敷市自殺対策基本計画審議会（草苅）
8月23日	市民公開講座 こころの力 「出会い～その意味と力～」森口 章氏
7月31日	日本いのちの電話連盟理事会（WEB会議） (堀井)
9月10日	講師派遣 三門地区民生委員児童委員協議会 (草苅)
9月13日	講師派遣 岡山県聴覚障害者センター (要約筆記者研修) (草苅)
9月13日	日本自殺予防シンポジウム（ZOOM 開催） (堀井)
9月15日	講師派遣 岡山県立勝間田高等学校（森口）
9月27日	市民公開講座 こころの力「共感と共鳴～つながりが「わたし」をつくる～」松村 圭一郎氏
10月 3日	講師派遣 香川いのちの電話協会（堀井）
10月 7日	倉敷市自殺対策基本計画審議会（草苅）
10月 9日	講師派遣 新見市立新見南中学校（牧野）
10月 9日	犯罪被害者支援研究会（草苅）
10月10日	スーパーバイザ一部会

10月15日	岡山県自殺対策連絡協議会（堀井、草苅）
10月24日	日本いのちの電話連盟理事会（WEB会議）（堀井）
10月30日	講師派遣 岡山県立倉敷古城池高等学校（森口）
11月 4日	講師派遣 備前市（人権セミナー）（草苅）
11月21日	第33回岡山自殺予防公開講演会
11月25日	講師派遣 井原市役所（山口）
11月25日	講師派遣 岡山県立津山商業高等学校（草苅）
12月12日	日本いのちの電話連盟理事会（WEB会議）（堀井）

*毎月11日はイオン黄色いレシートキャンペーン
(店頭活動はお休み中)

*毎月 10 日は自殺予防フリーダイヤル
(AM 8:00 ~ 翌 AM 8:00)

*毎日 FD (6月20日から参加)

*ナビダイヤル(7月1日から参加)

